

追悼文

北畠 耀先生を偲んで

In memory of Professor Akira Kitabatake

大関 徹

Toru Oozeki

文化学園大学名誉教授／日本流行色協会

Professor of Emeritus, Bunka Gakuen University,
Japan Fashion Color Association / JAFC

北畠耀先生（文化学園大学名誉教授）の突然の訃報を10月の初めに知らされました。

北畠先生は文化学園大学（旧名称：文化女子大学）で色彩学、色彩計画など色彩科学とカラーデザイン、色彩調和、服飾や芸術文化、色彩教育などの分野での研究者として、授業、執筆や講演などに幅広く活躍されてきました。色彩学会では、名誉会員であるとともに、第20回色彩学会賞を受賞されています。

先生と最初に出会ったのは、1980年頃で、私の前職の組織である日本流行色協会の行事のときでした。私は大学を出たばかりで、同協会の研究職として勤めていたのですが、北畠先生には協会のカラーデザイナー養成講座の講師をお引き受けいただいて、初めて講義をお聞きしたのがご縁の始まりでした。

温かいお人柄で、東京芸術大学の油絵科のご出身だけあって、特に画家の色使いの裏側とも言える色彩の精神性について熱心に講義されていたことを思い出します。

北畠先生とは、その後、日本色彩学会の会議や、全国大会のみならず、日本産業規格の色名関連委員会などでも多くお会いしてきました。また、東京商工会議所のカラーコーディネーター検定でのテキスト作りの委員会や、色彩指導者養成講座などでも長らく一緒にさせていただきました。

先生は特に、カラーシステムおよび色彩調和論への造詣が深く、著書「色彩学貴重書図説」に知見の深さがよく顕れています。

色彩調和に直結する色相とトーンの概念による色空間の分割を特に深く研究され、事例としては、現在のJISの系統色名区分とマンセル値との関連、日本塗料工業会の「塗料標準色」を完成させるなどの業績に反映されています。

色立体の構築とともに調和形式を体系的にとらえたシュブルールの調和論を研究され、実際にパリを訪れ、市内の植物園にあるシュブルールの石像との記念写真を嬉しそうに見せていただいたことなどが



思い出されます。

また、マンセルのカラーシステムと色彩調和論も詳しく研究され、2017年に文化学園大学で色彩学会の全国大会を開催した折には、ちょうどその年がマンセル没後100年にあたるとして、先生による記念講演や図書館で収集した多数のマンセル関連資料などを展示し、以前からの先生のご要望を叶えることができ、先生も大変喜んでおられました。

定年退官後もますますの研究活動を続けられ、日本のみならず中国の研究者養成にも取り組んでいらっしゃいました。

今年の9月30日、交通事故に合われ、90歳でご逝去されてしまいましたが、6月に日本流行色協会の理事会でお会いした際に「大関君、2026年の協会誌に流行と色彩についての研究文を寄稿したいのだが」と依頼されました。喜んでお引き受けしたのですが、実現することができず、誠に残念至極と言わざるを得ません。7月に原稿内容の事前打ち合わせのために電話でお話しした際、流行現象、色彩の特質、色の時代性、調和とカラーシステム関連などなど、内容の膨らみについて30分以上にわたりお話を交わしました。そのお元気な大きな声がいまだ脳裏に残っています。

ご生前にいただいた大きなご恩に深く感謝いたしますとともに、北畠先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。